

ピックルスコープレーション西日本

キムチ商品「ご飯がススム」のヒットでブランド力がついて生産拡大が求められた。ピックルスコープレーション西日本（佐賀県みやき町）の木村誠取締役佐賀工場長はこう振り返る。佐賀工場（同）は低温循環型冷水装置を導入。夜間の電力利用と組み合わせる運用で商品作りや洗浄に使うチラー水の生成や利用を効率化する。同工場は九州・沖縄のコンビニエンスストアやスーパーマーケット、量販店、生協など

向けて浅漬けやキムチ、総菜などを製造する。親会社のピックルスコープレーションが進める西日本エリアの生産力強化戦略の一環

モノづくり現場
生産革新・脱炭素社会への挑戦
第2部 ⑧

低温循環冷水装置を導入

チラー水 消費電力50kW減



として、2018年に水装置を導入した。浦工業の低温循環型冷水装置や総菜の製造に必要なのが大量の水。同工場が1日に利用する水は全体で約130t。主な用途は、通常の湯、冷却したチラー水、屋上に設置した低温循環型冷水装置を説明する木村工場長

水、殺菌水の4種。このうちチラー水は1日約40t。低温循環型冷水装置は二重管式熱交換器を使って、装置内を循環する水を1・5〜2・0度Cまで冷却してチラー水を生成する。チラー水は浅漬けなどの調味液として商品と一緒にパッケージングするほか、野菜の鮮度を保持しながら洗浄するために使う。

工場は、通常の水をくみ上げてためる貯水槽とは別にチラー水専用の貯水槽を持つ。主

【事業所概要】▽所在地〓佐賀県みやき町白壁243の1、0942・50・6155▽主要事業〓浅漬け、キムチ、総菜など食品製造販売▽年間CO₂排出量〓866t（20年4月〜21年3月）

に22時〜3時までの夜漬け、キムチ、総菜の間に、2台の低温循環冷水装置で生成したチラー水をこの専用槽に貯水。8時〜16時の工場稼働時に用いる。パック。3万パックで採算が合う。6万パックは、5年後以降「（同）を想定する。生産量が2倍になれば、チラー水も単純計算で約80tが必要となる。「日中の電力負荷を低減しながら、チラー水の安定供給を実現し」と評価する。

工場設計の際に、浅

（九州中央・勝合聡）
（おわり）